

ちびっこ チャンピオン

「夢にむかって 空高く はばたこう!!」

青い鳥保育園のなかよしたち

(左から)

にしぎき りょうくん (5さい)
ほりえ うたくん (5さい)
いちのへ おうがくん (5さい)
お の おうきくん (5さい)

このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



深浦町の花



福寿草
深浦町の木



樺
深浦町の鳥



カモメ



このコーナーでは
誕生日を迎えたチビッコ達をご紹介します



川幡 湖白ちゃん
(柳田) R3/5/24生
「甘々なハバが大好き。2歳も元気に遊ぼうね。」



松沢 心春ちゃん
(広戸) H29/5/1生
「やさしいおねえちゃん! そのままのこはるがだいすきだよ!」

草創教育長の「今月の一枚」

人生の肥やし



絵は、私が人生でたった二回しか経験したことのない作業です。今から半世紀以上前

母から命じられた「ゲスクミ」です。ご存じですか? 「ゲスクミ」。おそらく「下水汲み」が訛った言葉。野菜等の肥やしにするために、ポットン便所から尿をくみ取る作業をさします。肥料として使うし尿のことを「下肥」と言い、昭和四十年過ぎた頃までは、どこの農村でも普通に見られた光景です。

眉をひそめる方もあるかもしれませんが、化学肥料が登場するまで、江戸時代から続いた、正統派のリサイクルシステムなのです。…とは言え、この作業、小学生にとつては非常につらい。便所から長いひしゃくでオケにくみ取り、両肩にかついで山の上の畑まで、けっこ急な道をエッチラオッチラ運ぶのです。ゆれるオケから、ピッチャンピッチャン汚水が飛び散って体にかかります。においます。泣きたくなります。命じた母を恨

みたくなりません。けっして誰にも見られませぬように…と、ひたすら祈ります。

「きつい・きたない・きげん」な仕事を、ローマ字の共通頭文字をとつて「3K」と言ったりしますが、この「ゲスクミ」は「くさい」「かつこ悪い」をたすと「5K」にもなりません。

なにせ「5K」ですから、若い頃は話題にするのも気がひけました。でも今は、むしろ胸を張って話せる自慢話になっています。

私は、小さい時から、汗や土や汚物にまみれながら、家族と一緒に働く喜びを共有し、その経験を積み上げてきた。

しかも、これ以上つらい仕事は、もう人生には現れないに違いない。「ゲスクミ」という、最高級の「5K」の仕事さえこなしてきたのだ。

フン、もうどんな仕事も来ても驚かない、ドンと来やがれ! 大げさに言えば、そんな大それた自信が、今の自分の土台を少しずつ形造ってきたと思うのです。

人は、最悪をのりこえるたびに、少しずつ自信も耐性も身についていくものです。

畑に運んだ肥やしは、実は、私の人生の肥やしにもなっているのです。

(教育長 草創 文人)